



**株式会社ベネッセホールディングス**

ESG・サステナビリティ説明会

2023年2月21日

## イベント概要

---

[企業名]	株式会社ベネッセホールディングス		
[企業 ID]	9783		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	アナリスト説明会		
[イベント名]	ESG・サステナビリティ説明会		
[日程]	2023年2月21日		
[ページ数]	38		
[時間]	16:00 - 17:05 (合計：65分、登壇：56分、質疑応答：9分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[登壇者]	6名		
	代表取締役社長 CEO	小林 仁	(以下、小林)
	専務執行役員 CDXO (Chief DX Officer) 兼 Digital Innovation Partners 本部長	橋本 英知	(以下、橋本)
	常務執行役員 ESG・サステナビリティ推進本部長	岡田 晴奈	(以下、岡田)
	常務執行役員 CFO 兼 財務・経理本部長	坪井 伸介	(以下、坪井)
	CHRO 兼 人財本部長	村上 久乃	(以下、村上)
	CSO 兼 経営企画推進本部長	上田 浩太郎	(以下、上田)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



### 第1部 ベネッセのESG・サステナビリティ

### 第2部 サステナブルな社会の実現に向けた変革と成長

### 今後に向けて



小林：本日は、皆さんご多用の中、弊社の ESG・サステナビリティ説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、第1部でベネッセの ESG・サステナビリティの取り組みについて、岡田、村上、橋本から説明をさせていただきます。第2部では、サステナブルな社会の実現に向けた変革と成長について私と上田から説明させていただきます。

本日、大人数となりましたが、複数の責任者から説明させていただきます。われわれは今、ベネッセのこれからの成長と、サステナブル、ESG ということをしっかり一体化しながら事業を進めていこう、会社を運営していこうという覚悟をもって、取り組んでいるところでございます。しっかりと聞いていただければ非常にありがたいと思っております。

では、ベネッセの初めての ESG・サステナビリティに限定した説明会でございますので、まずはベネッセを少しでも感じていただくために、動画をご用意いたしました。ぜひご覧ください。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## ベネッセグループの企業哲学(フィロソフィ)

**映像：**世界が大きく変わろうとする今こそ、私たちには変わらずに大切にしている企業哲学、フィロソフィーがあります。

ベネッセグループの前身、福武書店は岡山で誕生しました。1990年、Benesseを発表。1995年、ベネッセコーポレーションに社名を変更しました。

Benesse = 「よく生きる」。ここから、「よく生きる」を経営の中心に、ベネッセグループの新たな挑戦が始まったのです。

ベネッセにはこの企業哲学を体現している、特別な場所があります。ベネッセアートサイト直島。福武財団とともに、直島、豊島、犬島を舞台にアート活動を展開。ここは、訪れる人に Benesse（よく生きる）を考えてもらう場であり、お年寄りの笑顔があふれている幸せなコミュニティでもあります。

この企業哲学をよりどころに、私たちはさまざまな事業で、お客様のよく生きるの支援を広げてきました。直島で、事業で、「よく生きる」をよりどころに歩み続けてきたのが、ベネッセグループ。

「よく生きる」を英語にすると、Well-being。サステナビリティやSDGsが目指す未来像のこと。私たちはこの企業哲学を社名に掲げ、30年以上前から真摯に追求し続けてきました。次の未来に向けて、さまざまな社会課題を人を軸に捉え直し、人とテクノロジーの力でサステナブルな社会と

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



未来をつくりたい。私たちは事業活動を通じて、さまざまな可能性を広げていきます。高い志を持つ社員とともに。

Benesse = 「よく生きる」。

**小林**：ありがとうございました。それではここから、ベネッセの ESG・サステナビリティの取り組みの現状と今後について岡田よりお話をさせていただきます。

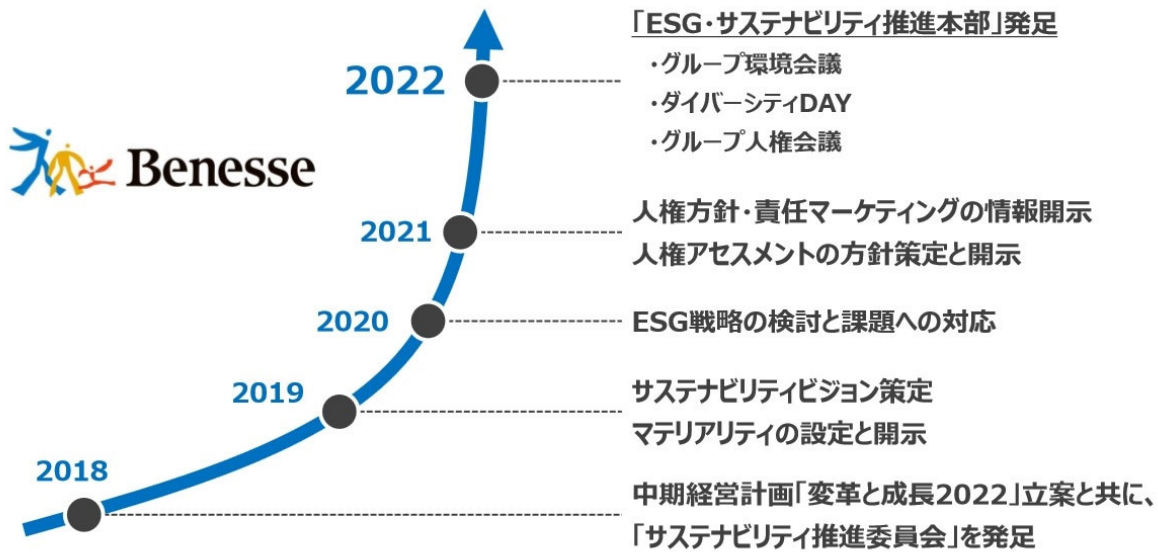
---

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



「経営」と「サステナビリティ活動」の統合を推進中。



**岡田：**岡田でございます。ベネッセは、今ご覧いただきましたように、人々の「よく生きる」を支援する企業グループです。よって今、社会が目指そうとしている ESG・サステナビリティの取り組みは、私たちにとってきわめて必然のものと考えています。

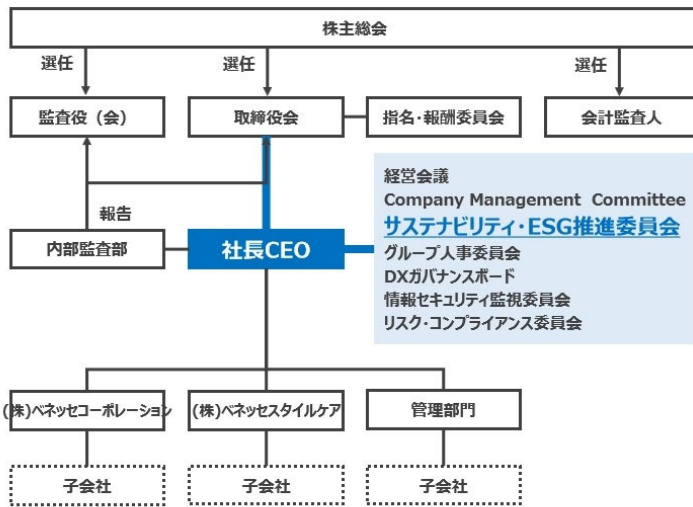
その前提の下、2018 年中期経営計画の策定と同時に、サステナビリティ推進委員会を発足いたしました。事業による社会課題解決が重要であるため、社員とのコミュニケーションを皮切りに、さまざまなステークホルダーの皆様のご意見をいただきながら、2019 年にサステナビリティビジョンとマテリアリティを設定いたしました。ESG の外部評価、分析を通じ、不足する課題を可視化しながら、重点テーマを選定し、戦略、取り組み、開示を一貫して行っております。

2020 年には人権の取り組みをスタートし、人権デューデリジェンスによる実態把握、2021 年には人権方針の策定と開示を進めています。そして、2022 年にはさらなる経営、事業とサステナビリティ活動の統合を目指し、ESG・サステナビリティの本部が発足。グループ全体での ESG を推進しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

サステナビリティをコーポレートガバナンスの中核に置き、審議事項を取締役に付議・報告。



■ 代表取締役社長CEOを含めた常勤取締役および事業部門責任者をメンバーとする委員会

■ 2022年4月、社長CEO直下に「ESG・サステナビリティ推進本部」設置

■ 担当役員(常務執行役員)を選任

グループのESG・サステナビリティに関する主要方針と取り組みを決定

続きまして、ESG およびサステナビリティ活動のグループ推進体制になります。

コーポレート・ガバナンスの中核に、ESG・サステナビリティを置いております。社長CEO直轄のサステナビリティ・ESG推進委員会が、推進の主体となります。本委員会は、CEO、常勤取締役のほか、事業責任者である全てのカンパニー長によって構成しています。これによって、事業を通じたサステナビリティ活動の実行を、より確実にやっていくことができる体制になりました。

また、推進体制のさらなる強化のため、本年4月より専任組織として本部を設置、全グループ会社を対象とした活動へと進めております。委員会の設立以降、累計16回開催しており、審議事項は定期的を取締役に付議、報告を行っております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

社会とお客様の变化にスピーディーに対応。特に人的資本の強化は、変革と成長のドライバー。

<b>E</b> 持続可能な地球環境への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 気候変動対策への企業の役割</li> <li>■ GXとエネルギー価格高騰の現実課題</li> <li>■ 中長期の本質的対策の必要性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境目標の策定※(株)ベネッセコーポレーション</li> <li>■ 事業特性に合わせた環境活動</li> <li>■ ロジスティクス・センターのCO2削減</li> </ul>
<b>S</b> 成長を支えるベネッセの人財	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人的資本強化</li> <li>■ DX/AI等進展による職種の変化</li> <li>■ 個人の働き方や価値観多様化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 理念浸透によるエンゲージメント</li> <li>■ 提案制度『B-STAGE』の実施</li> <li>■ ダイバーシティの強化</li> <li>■ ラーニングカルチャーへの挑戦</li> </ul>
<b>G</b> ガバナンスのさらなる強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多様性のあるガバナンス</li> <li>■ 取締役会のESGコミット</li> <li>■ 情報セキュリティの維持・向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ コーポレート・ガバナンス体制</li> <li>■ 取締役会の実効性向上</li> <li>■ 情報セキュリティ対策の徹底</li> </ul>

次に、ベネッセの ESG 取り組みの全体像になります。左からテーマ、課題、取り組みの例となります。

まず、E の環境領域です。環境への取り組みでは、ベネッセコーポレーションとして 2011 年に環境方針、2012 年には環境目標を策定いたしました。2019 年に教育事業者として初の TCFD 賛同を行ったほか、当社教育サービスを通じた社会や子供たちへの働きかけにも力を入れております。

次に、S の社会の領域になります。S の取り組みは、ベネッセのサステナブルな成長において最も重要な領域と考えます。従来より、当社では人が軸との考え方の下、人を最も重要なアセットと捉えており、理念ドリブンな経営の浸透、そして自立した働き方と成長支援を重視した取り組みを強化してきました。この後、具体的な事例もご紹介させていただきます。

G、ガバナンスのさらなる強化です。社外取締役が半数を占める取締役会が、多様かつ長期的視点で経営の意思決定を行います。取締役会の実効性評価を 2015 年から毎年実施、開示しており、実効性の一層の向上に取り組んでおります。

リスク最小化の観点からは、2014 年の個人情報漏洩えい以降、情報セキュリティの維持・向上をさらに重視をしており、活動を継続しています。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



中長期的な環境目標を策定し、気候変動への対応にグループ全体で取り組む。

TCFD賛同&提言に沿うシナリオ分析

自社に影響のあるリスクと機会を発生確率と影響度の2軸から分析、結果を踏まえた戦略・推進

移行 リスク	代替素材へ変更 (再生プラスチックなど)	配送料の高騰 (トラック便)
	エネルギー 価格の高騰	消費者の環境意識への期待に応えられない 場合のレピュテーションリスク
物理 リスク	サプライヤーからの 調達不全	物流網の停止による 発送方法の変更
	物流拠点の 深刻な被害	環境の変化、感染症の拡大などによる 物流網の再構築
機会	消費者意識の変化	環境の技術革新による 競争優位性
	レジリエンスの 高い物流基盤	グローバルな環境保全活動 への取り組み

1.5℃水準の目標へ上方修正

スコープ1+2の削減目標はSBTi認定済み  
スコープ3の削減目標はSBTi2℃目標認定済み

	毎年	2030年	2041年	2050年
スコープ1+2 (1.5℃目標)	4.4% <sup>※</sup>	52.8% <sup>※</sup>	100%	100% <sup>※</sup>
スコープ3 <sup>※</sup> (2℃目標)	1.23%	14.8%	-	39.4%

※(株)ベネッセコーポレーション/各年3月期

※SBTi認定済み

続いて、具体的な事例をいくつかご紹介させていただきます。

まず、環境の事例を、続けて岡田からご説明させていただきます。その後に、人財強化の事例を、CHRO 村上、DX 推進担当の CDXO 橋本より、ガバナンスと併せてご説明をいたします。




こちらは、気候変動への取り組みについてです。TCFDの提言に沿ったシナリオ分析を行っております。移行リスクといたしましては、ゼミで使用している教材の素材変更に加え、配送料の高騰、エネルギー価格の高騰など、既に顕在化してきているものもありますし、物流に関してはさらなる継続的な備えが必要と考えています。

自社に影響のあるリスクと機会について、発生確率と影響度の2軸から分析を行い、結果を踏まえた戦略と取り組みを推進しているところです。本取り組みは、主要事業会社であるベネッセコーポレーションが先行して取り組んできており、温室効果ガス排出量の削減目標を、従来のWB2度水準から1.5度水準に上方修正をしております。今後はベネッセグループ全体への取り組みを広げ、目標の設定を行ってまいりたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

子どもの発達段階や指導カリキュラムに即した環境教育の機会を提供。

<p>幼児</p>	<p>テレビ番組「しまじろうのわお!」</p>	
<p>小学生 中学生 高校生</p>	<p>「未来をつくるコンクール・環境部門」 「探究ナビ」</p>	
<p>官公庁との 連携</p>	<p>「STEAMライブラリー」 ※経済産業省「未来の教室」</p>	

次に、事業特性に合わせた環境活動についてご紹介させていただきます。環境活動に対しては、学びのさまざまなアクセス機会を持つベネッセらしい社会貢献も大切にしています。

例えば、幼児期には「こどもちゃれんじ」のキャラクター、「しまじろう」と一緒に、テレビ番組を通して身近にある自然への興味関心を育むコンテンツをお届けしています。優れた幼児向け教育番組として、国際アワードも過去多数受賞しています。

さらに、自社にとどまらず、賛同いただける他社様と共同で、親子で学べる環境教育コンテンツの提供なども行っております。小学生以上では進研ゼミの教材サービスの中に、また学校向けの教材にも環境テーマを取り入れるなど、SDGsの浸透とともに高まる新たな教育ニーズにお応えしています。

2021年には経済産業省からの要請により、未来の教室が行うSTEAMライブラリーにもコンテンツをご提供するなど、社会、お客様からの期待が感じられる取り組み事例もございます。

次からCHRO 村上より、人財強化のご説明となります。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ベネッセのサステナビリティ活動は社員が主役。社員と思いを共感しあう施策を実施。

<p><b>創業日朝礼</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1991年開始</li> <li>■ 累計20回以上開催</li> <li>■ 2008年以降は年1回必ず実施</li> </ul>		<p><b>グループ エンゲージメント調査</b></p>
<p><b>サステナビリティ Study</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2019年開始</li> <li>■ 2022年テーマ『多様性と変革』 (23社4,000名参加)</li> </ul>		<p><b>MOTIVATION CLOUD</b></p> <p><b>A</b></p>
<p><b>理念冊子 “BATON”</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2022年4月発刊 全グループ対象 (初回配布は約1万冊)</li> </ul>		

村上：それでは、理念浸透によるエンゲージメントからお話をしてみたいです。

人については、まさにベネッセが創業以来大切にしてきたことであり、ベネッセの財産は志を持った人であるという考えがわれわれの根本にあります。サステナビリティ活動においても、ここが最も重要なことと考えておりますので、新たな取り組みも含めてご紹介します。

事業を取り巻く環境変化が加速する今、事業の存在意義、つまりなぜこの事業にわれわれが取り組むのかについて、一人一人の社員が意識することがますます重要になってきます。社員とのエンゲージメント活動においては、ここにありますように朝礼といった従来から続けていることはもちろん、新たな取り組みを強化しております。

オンライン学習のサステナビリティ Study は 2019 年に開始し、グループ 23 社、4,000 名が受講。社会のこれからを洞察し、自分の仕事とつなげて考える機会となりました。

また、今年度 2022 年 4 月には理念冊子、BATON を発刊。こちらは、ベネッセの誕生から事業の実践事例をまとめた冊子ですけれども、この冊子をベースに、ベネッセの理念を事業でどう実践していくのかを社員たちが考える勉強会を実施いたしまして、この勉強会には毎回約 1,000 名、合計 3,000 名の社員が参加いたしました。

このような取り組みの結果としまして、年 2 回実施のエンゲージメント調査で A レーティング、これはアセスメント参加企業の上位 20%に該当するものですが、このポジションを維持し続けて

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

おります。理念への共感浸透と従業員の満足、ここに相関が強いのが当社の特徴であり、今後も理念と事業をつなげる活動を継続してまいります。

---

#### サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



社員の自主性に根差したグループ提案制度「B-STAGE」には、多くの事業提案が集まる。



続いて、グループ提案制度の B-STAGE についてご説明いたします。思いの共感や共有だけでなく、事業という形にしていくことはさらに重要で、こだわってまいります。

その一環として、グループ提案制度 B-STAGE を 2021 年にスタートしました。かなり以前から、現場の声を経営に生かしていくという提案活動は当社において根づいておりましたが、それをより活性化したものにしようということで、現 CEO の小林が COO 時代にプロジェクトを立ち上げ、グループ全体を巻き込んだものとして再生したのが、この提案制度です。

大事にしたのは、社員の自主性と経営の本気です。提案するほうも受け止めるほうも、自分自身の意思と圧倒的な熱量で取り組むこと。まずは経営側がその決意を示し、社員に問いかけました。その結果として、初年度には目標を上回る 1,782 件の提案が寄せられ、その中の一つは実際に事業化が決定しております。

先日実施した第 2 回では、初年度の 2 倍近い提案がありました。このような社内の提案制度で、2 年目の応募数が 1 年目を超えることは非常にまれなケースであると、社外の方からも驚きの声をいただいております。こちらの最終審査会は、社外のゲストも招いて 1 日ばかりで行われた熱い議論の様子は、全グループの従業員に公開されました。これまでにない事業領域や、ユニークな視点の企画が多々出てきており、有望なものには予算と体制をつけて検討を継続してまいります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

新しい価値創造と持続可能な成長を目指し、女性活躍の次のダイバーシティを強化。



- 管理職に占める女性比率  
国内平均9.4% < **ベネッセ33%**  
※(株)ベネッセコーポレーションの比率(2022)
- 育児休職復職率：**95%以上**  
※(株)ベネッセコーポレーションと(株)ベネッセスタイルケアの比率(2022)
- 育児休職開始者数：**377人**  
※(株)ベネッセコーポレーションと(株)ベネッセスタイルケア(2022)
- 「女性上司には抵抗感がある」  
**ベネッセ2.7%** < 国内平均**14.6%**

続きまして、ダイバーシティの強化です。

事業を変革する、あるいは持続させていくためには、自分たちがこれまで持っていた価値観や発想を大きく変える何かが必要であり、その起爆剤となり得るのが人と組織の多様性であると考えています。

男女雇用機会均等法施工前から、多くの女性総合職社員が活躍するなど、ジェンダーダイバーシティが備わっているのはベネッセの大きな強みです。現在も女性管理職比率は3割を超えるなど、全国平均を大きく上回っており、育児休職後の復職率も95%と高水準であり、出産後、子育てをしながら働くことは、当社の社員にとっては完全に当たり前の状態となっております。

一方、本部長以上の上級管理職では女性任用にまだ余地があることは課題としてとらえており、この点については現状を可視化して、目標を持った活動を既にスタートさせています。そして、多様性にフラットな文化がもともとある利点を生かして、女性活躍の次のステージのダイバーシティに取り組んでまいります。

この後は橋本より、DX強化に向けてのラーニングカルチャーへの挑戦についてご説明します。

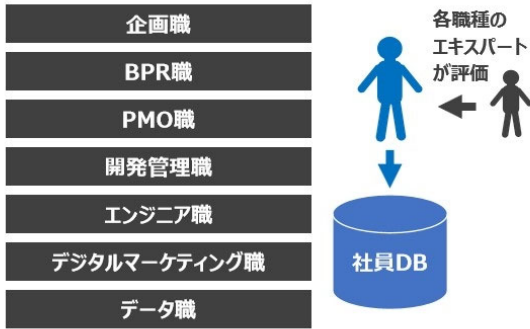
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

事業計画実行のために必要な職種別要員数と配置数を可視化し、組織力を客観把握。計画的な人財充足を行う。

職種定義と個人特定

各職種のスキル定義を行い、全社員のスキルを確認、  
タレントマネジメントシステムで管理



職種ごとのスキル定義は、社外のスキル標準(ITSSなど)と  
社内のハイパーフォーマー分析から設定

必要要員数と配置数のGAP分析

2022年のDX職種の充足率は86%(対前年+15%)

職種	必要数	配置数	配置レベル内訳		
			Lv3	Lv2	Lv1
企画			Red	Blue	Blue
BPR					
PMO					
開発管理			Blue	Red	Red
エンジニア			Red	Red	Blue
デジタルマーケティング			Red	Red	Blue
データ			Blue	Red	Red
合計					

対前年で増

対前年で減

「Lv1が大幅増のため育成が急務」という分析を  
部門別に行い、個人別の育成計画を立案

橋本：サステナブルな成長には、革新的なイノベーションが必要です。その革新的なイノベーションとは、今でいうとテクノロジーを使った事業変革であり、それがDXであると考えております。このDXを推進していく組織能力自体を、企業としてどうやって付けていくのか。これがわれわれのラーニングカルチャーへの挑戦の目的だと思っています。まずはこのDXを進めていくところから進めていこうとしています。

DXはどこからはじめるべきか、みなさん悩まれるところだと思います。当社ではまず、このDXにどのような専門職が必要なのか、およびどのようなスキルが必要なのかというところの定義から始めています。

ベネッセでは左にあります通り、DXを推進していくための七つの職種を、専門職種として定義しました。さらに、全社員に対して、どのスキルをどのレベルで持っているのかについて、それぞれの専門職のエキスパートが評価をしながら、個人の力を把握していき、それをタレントマネジメントシステムに登録をしているところです。

これができるようになると、右側にあるような全社で同じ指標で、事業を進めていく上でそれぞれの職種に何人必要なのか、そこに対して現状、何人充足できているのか、さらにそれがレベル別にどうなっているのかが分かるようになります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

事業を進めていくために必要なものをこの DX 職種を 100%とすると、2022 年は 86%となります。これは、昨年と比べて 15%上がっており、必要な人を社内で確保できてきている状態と言えます。

ただ、この右側にありますように、数字は入れてないのですが、赤色の部分も当然あります。この赤色の部分を外部から調達するのか、あるいは内部で育成していくのか、さらにどうやって育成していくのかを、会社中で議論ができるようにしていっているところが、まず前提になります。

---

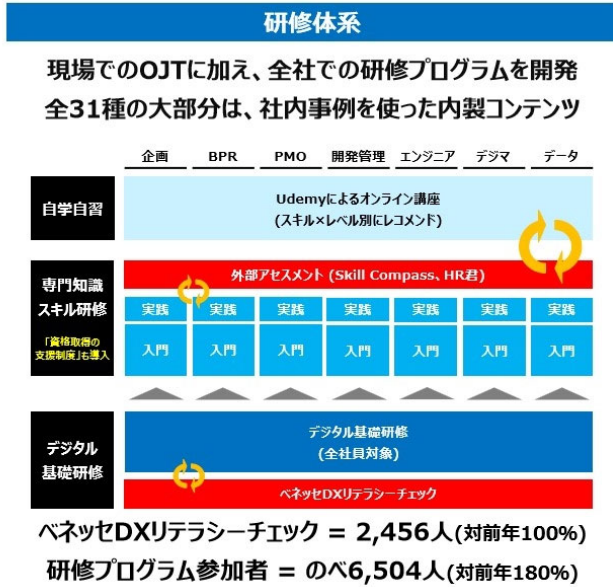
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





「アセスメント×職種別の育成プログラム」により、リスキングを実施。社員の主体性を引き出す施策を各種準備。



**リスキル体験談**

個人の学びを組織へ還元  
部門を越えたエキスパート人材との交流による学び

1984年、新卒でベネッセに入社。  
赤ペンから、小・中・高ゼミの営業・営業開発、  
WEBマーケ、情報編集など幅広く経験。  
2014年のチャレンジタッチ開講を機に、  
データ分析のスキルを深めていく。

**変わらねば！ 大の苦手な数学も学び、データサイエンティストに**

- **研修で2回連続不合格、手痛いトラウマで一念発起**  
社歴を重ねれば、仕事はこなせるようになる。  
でも、役割が変わる中で新しい知識やスキルは不可欠だと痛感。
- **手探りでデータを学ぶ**  
ゼミ会員の様子が可視化されたデータを活かしたい一心で、  
本・研修・Udemy・YouTubeなど手探りで学ぶ。  
大の苦手な数学もいつの間にか高校数学超えのレベルまで理解。
- **リスキルは身近な「？」から**  
身近な仕事の中の「これどうやったらできるだろう？」を考えるところから、学びは広がっていく。  
気負わずにスタートを！

次に、「人」の側面になります。

左側にあります通り、まず研修体系をつくっております。もちろん現場でのOJTが大前提にはなっていますが、それだけでは人を育てていくことは難しいです。

よって、全社で研修プログラムを、先ほどあった職種別に準備をしております。この研修自体も、社内の事例も生かしながらしかりとつくり、内製コンテンツでやっています。さらに、この研修を受けた上でどれくらいの力が付いているのかに関しては、外部のアセスメントも使いながら測定しています。

さらに左の下側にあるように、当社では経営層も含め全員が最低限そのリテラシーを付けていかなければならないと考えておりますので、リテラシーを測る当社オリジナルのチェックテストを行った上で、その結果を基にした研修のリコメンドを行っています。これは当社の特徴でもあります。

ベネッセコーポレーションにおいては、今8割以上がこのDXのリテラシーチェックを受けており、さらにそこから、さまざまな業務に必要な研修を受けてもらっています。さらにそれを個人の努力だけではなく、組織の知に変えていかないといけない。組織の知に変えるために、どうやって学んできたかなどの苦労話、経験談について共有できるような、部門を越えたエキスパート人材の交流も行っています。

**サポート**

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



この右側の方は入社 38 年目の社員ですが、元来数学が本当に大の苦手だったところから、かなりご苦労されて、データサイエンティストとして活躍している人です。この方が自分の実体験も含めて、これから目指す若手に対して教えていくといったことも行っております。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



お客様情報の安全性に最も真摯に向き合う会社になる決意のもと、取り組みを継続推進。

<p><b>システムセキュリティの対策強化</b></p> <p>システムの運用・監視強化、技術的な対策を継続</p> <table border="1"> <tr> <td>システム運用におけるセキュリティ対策</td> <td>不正プログラム感染防止対策</td> </tr> <tr> <td>通信ネットワークの保護施策</td> <td>システムや情報へのアクセス制御</td> </tr> </table>	システム運用におけるセキュリティ対策	不正プログラム感染防止対策	通信ネットワークの保護施策	システムや情報へのアクセス制御	<p><b>従業員への啓発・教育</b></p> <p>全社員が参加する「セキュリティデー」を毎年開催</p>  <div data-bbox="1129 488 1375 672"> <p><b>研修資料</b></p> <p>第1章 情報セキュリティ対策の基本</p> <p>ここでは、情報セキュリティ（個人情報保護の「きほんのき」）である、 ● 私たちが守るべき情報とその取り扱い原則 ● 情報セキュリティ対策の考えかた・ルール の確認をしています。</p> <p>※(株)ベネッセコーポレーション</p> </div>
システム運用におけるセキュリティ対策	不正プログラム感染防止対策				
通信ネットワークの保護施策	システムや情報へのアクセス制御				
<p><b>セキュリティ環境の強化</b></p> <p>レベル別のセキュリティゾーニング(区分け)を実施</p>  <p>※(株)ベネッセコーポレーション</p>	<p><b>事故対応体制</b></p> <p>発見から30分以内に窓口に通報するルールを徹底</p> 				

次に、Gの事例として情報セキュリティ対策の徹底をあげております。

ご存知のとおり、当社は2014年にお客様情報漏えい事故を起こしてしまいました。それ以降、改めてお客様情報の安全性に最も真摯に向き合う会社になるべく、取り組み続けております。

情報セキュリティの対策として、左側に記載のいわゆる情報管理のハード面の対策と、右側に記載の通りそれを扱うソフト面、つまり人、この両面で徹底して進めております。

ハード面に関しては、システムセキュリティの強化。これは攻撃手法の変化が本当に日々めまぐるしく起きており、そこに対してセキュリティ部門とIT部門が一緒になって、スピード感をもって対応を進めています。また、情報管理、データ管理におきましては、物理的なゾーニングも行いながらやっております。

そして、人のソフトの面においては、ベネッセコーポレーションの全社員が受ける研修や、セキュリティデーというお客様情報漏えいが発覚した日に毎年朝礼を実施。また、ヒヤリ・ハットも含めて、何かまずそんなことが起こったら、その情報がいち早くトップまで伝わる情報ルートの整備を行っております。

それでは最後、岡田さん。よろしく申し上げます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ベネッセHDは、GPIFが選定するESGインデックス(指標)すべての構成銘柄に採択。

SRIインデックス

イニシアチブ

※ MSCIインデックスへのベネッセホールディングスの組み入れ、および本ページにおけるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社によるベネッセホールディングスへの後援、保証、販促には該当しません。MSCIの独自の所有権：MSCI、MSCIインデックス名、およびロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標もしくはサービスマークです。  
 ※1 (株)ベネッセコーポレーション ※2 (株)ベネッセビジネスメイト ※3 (株)東京個別指導学院

岡田：1部の最後は、最新の外部評価や、インデックス組入れの一覧になります。

GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が選定する全ての ESG インデックスに採択いただいております。環境問題の取り組みにおいては、CDP から高い評価をいただいているほか、今年度はGX リーグへの参加も表明しております。

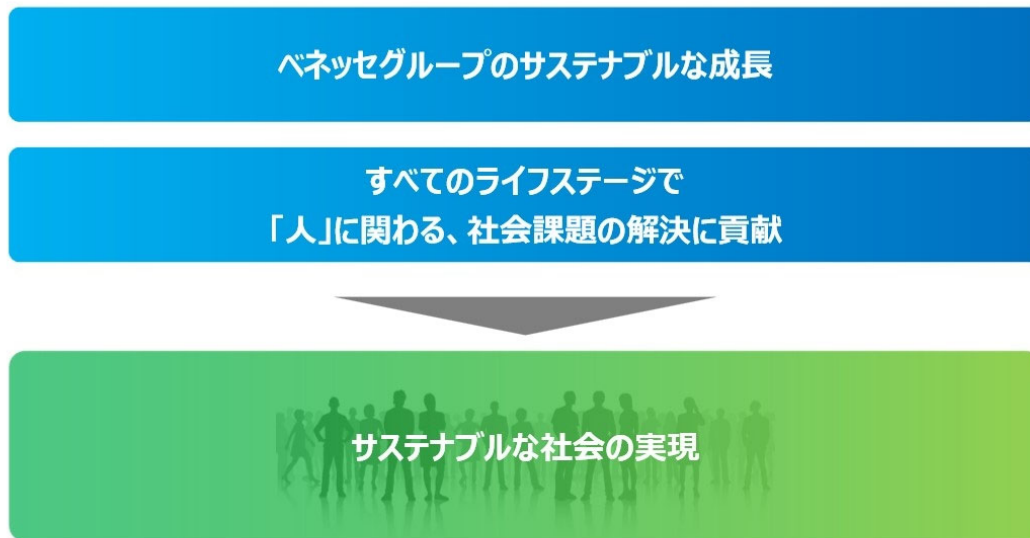
また、人的資本への評価では、ベネッセコーポレーションが長期的視点で人材育成に取り組み、社員が年齢によらず活躍できる場を持つなど、人生 100 年時代を見据えて、社会の課題解決に取り組む企業に贈られるプラチナキャリア・アワードを受賞しています。

このような外部からの期待に応え続けるため、ベネッセグループとして今後もしっかりと活動を継続し、透明性の高い開示に努めてまいりたいと考えております。

以上、第 1 部、ベネッセの ESG・サステナビリティのご説明を終わります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



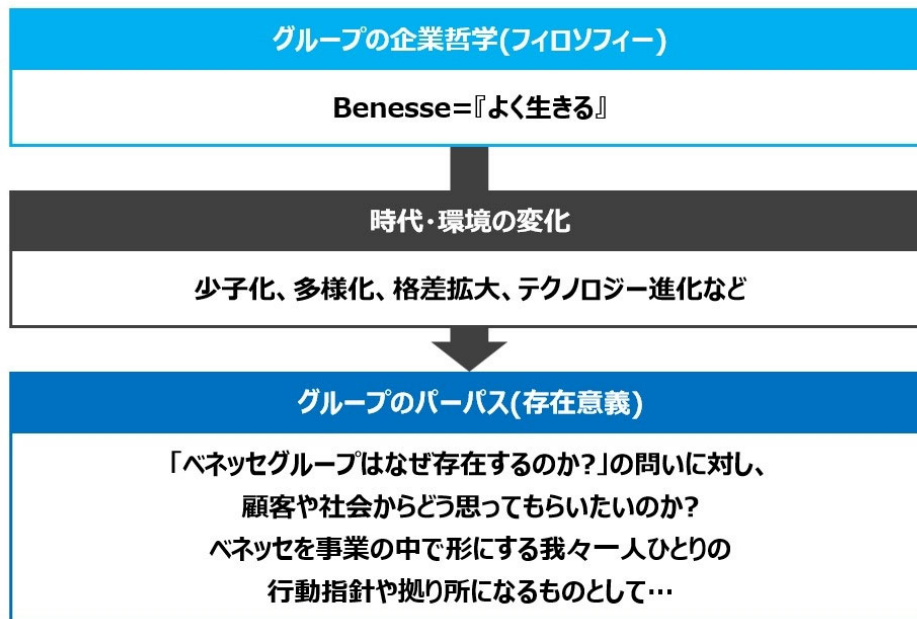
**小林：** それではここから、第2部の説明に入らせていただきます。第2部ではサステナブルな社会の実現に向けた、ベネッセの変革と成長の考え方について今考えていることをご紹介します。

当社は、Benesse = 「よく生きる」というフィロソフィーを掲げた企業体でございます。そんなベネッセが今後の活動、そして変革成長、この方向についてサステナブルな社会の実現との関係をどう考えているのか、どう考えていくのか。これがこれからのベネッセの持続的な成長、経営の軸として考えていかないといけない考え方だと私は捉えております。

めまぐるしい変化があり、答えがなかなか見出せないような社会の中で、人に関わる社会課題も多様化、複雑化し、非常に難しいものになっています。ベネッセのサステナブルな成長は、全てのライフステージで人に関わる社会課題の解決への貢献を通じて実現することであり、そのこと自体が、ベネッセのこれからの成長そのものなんだという考え方ととっていきこうと考えております。それが結果として、サステナブルな社会の実現に必ずつながっていく。そういう考え方をもって事業の変革に取り組んでいるところでございます。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



そういうことを考えるにあたって、何を軸に、会社全体でどのように取り組んでいくのかが非常に重要になってきます。前半で見ていただいたように、私たちは Benesse という強い、かつ絶対にぶれることのないフィロソフィーを持っています。

それをさらに具体的な事業現場で一人一人が構想し、実行していくためには、より事業に近い言葉としてパーパスを考え、言語化し、それをよりどころにしながら具体的な事業を考えていく。そういうことをやっていくことが、非常に重要なプロセスであろうと考えています。

パーパス自体は、実は既に3年ぐらい前から導入しております。次年度以降の各事業の事業計画検討を行う中で、必ずその1ページ目にそれぞれの事業のパーパスをしっかりと掲げ、それをより具体的な形で事業に表していくこと。既にグループの中では体質ができていると感じております。

ベネッセとパーパス、この関係をしっかりと確認しながら取り組んでいくことが、何よりも今のベネッセにとって重要であると考えておりますし、今見ていただいているシートはこのことをより徹底していくために、私自身がグループ社員の全員の前で、常にこの確認をしながら経営をしているシートになっております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

これから我々が目指す経営の軸を、「グループパーパス」として制定(2023年4月より)。

誰もが一生、成長できる。  
自分らしく生きられる世界へ。  
ベネッセは目指しつづけます。

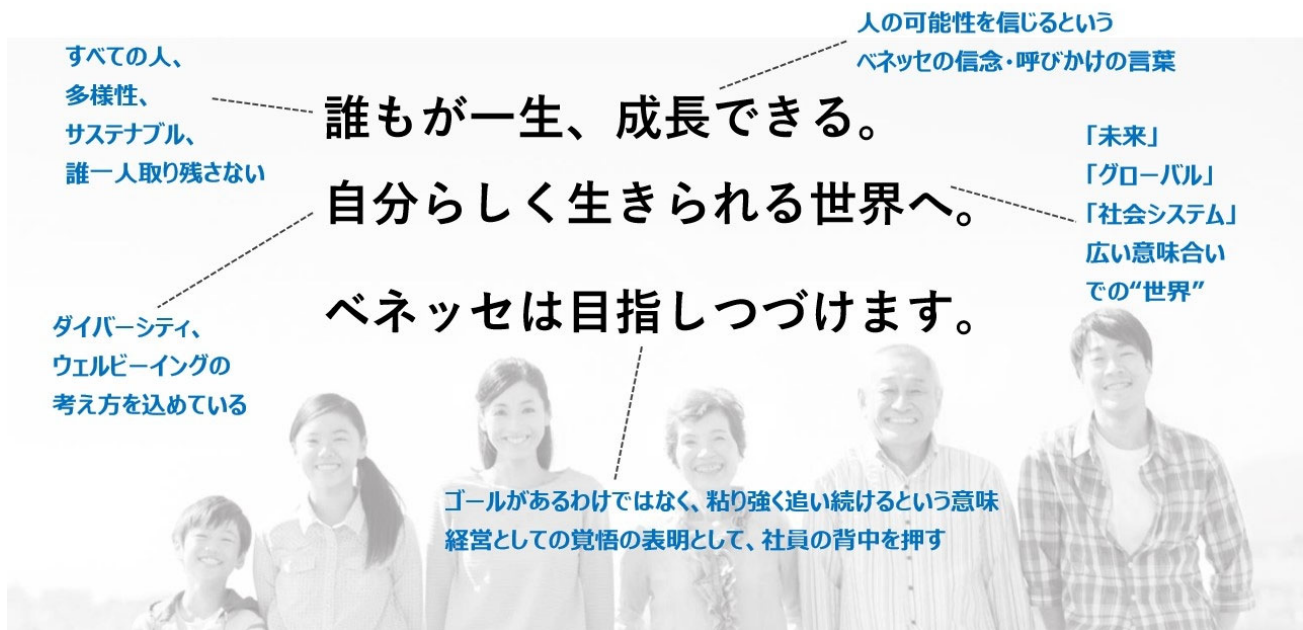


今回改めて、ベネッセグループ全体のグループパーパスを検討してまいりました。今日初めて皆様の前で披露させていただきたいと思えます。

「誰もが一生、成長できる。自分らしく生きられる世界へ。ベネッセは目指し続けます。」これを新たなベネッセグループのパーパスとして制定し、これからの事業の方向性、そして事業の成長の起点にしてまいりたいと考えております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



このグループパーパスの一つ一つの言葉の背景、なぜこの言葉にしたのか、少し説明をさせていただければと思います。

まず、「誰もが一生」は、誰一人取り残さずに、全ての人という意味で、多様性、サステナブルを包含したものになっています。「成長できる」とは、人の可能性を信じるというベネッセの信念、呼びかけの言葉です。

「自分らしく」に込めたのは、まさにダイバーシティ、あるいはウェルビーイングということ、これらを表現しています。そして「世界」。「世界」は未来とか、グローバルとか社会システムとか、そういう広い意味を言葉にして、世界という言葉を使うことにしました。

そして最後に、「ベネッセは目指し続けます」。きっとゴールがあるものではないかもしれませんが。終わりがあるものでもないかもしれません。人の一生、その方らしく、まさに求め続けていくものだと思います。そのことをやり続ける。事業でいうと変革をし続ける。これはわれわれ自身の強い覚悟と意志でございます。そのことをグループパーパスの最後に示させていただいたことになります。

「誰もが一生、成長できる。自分らしく生きられる世界へ。ベネッセは目指し続けます。」このことをわれわれグループのパーパスとして、グループ社員とともにしっかりとやってまいりたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



国内の人口動態変化に合わせ、社会課題の捉え方を再構築。



日本国内における全ての人のライフステージに関わる社会課題。この捉え方について、現時点で考えていることをお話しします。

ご存じの通り、妊娠、出産、育児、あるいは幼児、小学生、中学生、高校生というライフステージで、日本は少子化が起っています。さらにそのスピードも加速しています。ここにおけるベネッセの捉え方は、1人あるいは社会全体のその課題そのものをもっともっと深掘りし、進化をし、深掘りされた課題に対する市場創造をしていこう。そこにチャレンジをしていこう。当社がやっていたかなければいけないことだと考えています。

一方で、大学・社会人については、社会で求められている大学・社会人のリスクリングを中心とした学びの進化があります。また、シニアで起きている高齢化率の上昇に対して、社会的ニーズの増大をわれわれベネッセの成長の機会にしたいと考えています。この二つの大きな考え方を持って、それぞれに向き合っていきたいと考えております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

「人」に関わる社会課題を踏まえ、事業の方向性を捉え直す。



ライフステージ別の、人にかかわる社会課題を整理したものがこちらの表になります。

ここでは「妊娠・出産・育児」、「幼児～小学校・中学校・高校」まで、そして「大学・社会人」、「シニア」と四つのライフステージに分けて、現在想定している解決の方向性を整理したのになります。

まず、「妊娠・出産・育児」については、少子化時代の子の成長支援、あるいは親支援を、それぞれの多様性のあるニーズに対して、細やかにやり切っていくことにチャレンジをしたいと考えています。

続いて「幼児～小学生・中学生・高校生」については、教育の格差、あるいは学習意欲の低下。こういうことが今、大きな課題になっていると考えています。多様化する学びの支援と意欲を高める教育の実現、ここにこだわった、ベネッセらしい教育支援活動を今後も力強く展開していこうと思っています。

「大学・社会人」については、大学変革の遅れ、あるいは働く能力要件の変化、そして労働力不足が、今後の日本のこの領域における大きな社会課題であるという捉え方をしています。個人のウェルビーイングの実現と就労先での活躍、この世代の方々が感じられるように、しっかりと事業を構想し提供していきたい。今、まさに取り組みを行っているところでございます。

最後に、「シニア」になります。今後も要介護高齢者の増加はもちろんのこと、それを支える介護人材の不足、あるいは労働集約型である中でのDX化の遅れが、この領域の課題だと思っています

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

す。この課題に対しては、人生 100 年時代の超高齢社会で、今お話をした高齢者の方々への支援、あるいはそれを支える介護人材の充実等に、今まで以上に取り組んでいこうと考えています。

この後、より具体的に新たに動き出そうとしている取り組みについて、事例をお話しさせていただきます。CSO の上田から、よろしくお願いします。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



すべての児童・生徒が、自らの将来に希望を持ち、自分らしく学ぶための支援。

## 社会課題と顧客ニーズ

### ■一般入試から年内入試(推薦・総合型選抜)へ

私立大学の年内入試(推薦・総合型選抜)受験者の比率が、**2001年42.4%⇒2021年58.2%に増加**

※出典：文部科学省 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/2020/1414952\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1414952_00003.htm)

### ■多様な学びへのニーズの高まり

小学校1年生の保護者で、「好奇心や、前向きに頑張る気持ちを育てあげたい」が、**2018年39%⇒2022年46%に増加**

※出典：(株)ベネッセコーポレーション調査

### ■発達が多様な児童の増加と「インクルーシブ教育」

学習面または行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合が**2012年6.5%⇒2022年8.8%に増加**

※出典：文部科学省 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/2022/1421569\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2022/1421569_00005.htm)

## 新たに着手している取り組み

### 進路達成プログラム



リリース2年目で  
約500高校・  
約11万人が活用

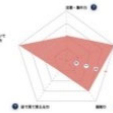
### みらいキャンパス



### チャレンジスクール



### まるぐらんど



2022年度  
日本e-Learning大賞  
最優秀賞



**上田**：ベネッセは、人にかかわる社会課題に真摯に向き合い、お客様ニーズの変化を見立てながら、グループパーパスを軸に事業ドメインを拡大してまいります。ここからは国内教育、大学・社会人、介護の三つの領域で、既存コア事業を越えて、新たに挑戦している取り組みをご紹介します。

まず、ここに表示されております国内教育の領域では、大学入試において、推薦や総合型選抜といった、多様な形態の年内入試を受験されるお子様がますます増えております。

また、特に低学齢のお子様の保護者の方々の間で、好奇心ややる気を育む、多様な学びへのニーズが高まっています。

さらに発達が多様で、さまざまな課題を抱えるお子様に対しての最適な学習、指導への環境へのニーズも高まっています。

これらの社会課題、お客様の变化に対して、ベネッセは右側にあるような新しい取り組みを行っております。高校生の多様な進路検討を応援する「進路達成プログラム」、実社会で活躍する講師と交流しながら学ぶ「みらいキャンパス」、一人一人の好きや得意を見つけ伸ばす、オンライン習いごと「チャレンジスクール」、一人一人の発達特性に合わせた学習や指導を支援する、「まるぐらんど」。このような新たな商品、サービスの提供を既に開始しています。

ちなみに最初にご紹介した「進路達成プログラム」、こちらはリリース2年目で既に500校、11万人のお客様にご活用いただいています。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

また、最後の「まるぐランド」、こちらは社内の新規事業提案大会で優秀賞をとった社員がチームをつくって、具現化したものですが、こちら今年度の e-Learning 大賞で最優秀賞をいただきました。

これらの活動を通じて、全ての児童、生徒が自分の将来に希望を持ち、自分らしく学ぶための支援を行ってまいります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



学び続けられる社会へ、個人と組織を支援。

## 社会課題と顧客ニーズ

### ■リスキリング需要の増大と人材市場の成長

デジタル化進展や人材不足等を背景に意識・需要が増加  
働く人の1/2にリスキリング必要と報告

※出典：ガボス会議The Future of Jobs Report 2020

### ■日本はOECD諸国で最も大人が学ばない国

25~64歳の大人が教育機関で学ぶ割合は、OECD諸国  
平均10.9%に対し、日本は2.4%で最低値

出典：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/18/dl/18-1.pdf>

### ■日本における外国人就労の増加

在留外国人などは、現在人口の2%から、  
2060年には10%以上になる見込み

※出典：国土交通省 <https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001365995.pdf>

## 新たに着手している取り組み

### Udemy

国内導入社数は  
1,000社超



### 就労支援



魅力を見つけ、  
強みに育てる  
就活オファーサービス  
学生満足度総合  
No.1  
2年連続

### インバウンド支援



次は、大学・社会人領域です。

ご案内のとおり、デジタル化の進展や人材不足を背景に、社会人の学び直し、リスキリングの需要が高まっています。OECDの調査では、日本は最も大人が学ばない国であるといわれていたりしますが、逆にいえば、ここから大きな伸びしろがあるとわれわれは考えています。

さらに、労働人口の不足への一つの解として、日本で就労される外国人の方々の数が大きく増えていくことが予想されています。

このような見立てを前提に、ベネッセは既に導入社数が1,000社、利用者数も110万人を超えているオンライン学習サービスのUdemyをさらに拡充。そして、企業や個人の学び直しやスキルアップ、キャリア実現を支援していきます。

また、新卒就労支援を行うdodaキャンパスに加え、外国人のインバウンド支援を行う新サービスの提供も考えておりました。学ぶと働くを繋いだ就労支援にも、さらに力を入れて取り組んでまいります。

これらを通じて、学び続けられる社会の実現に向けて、組織や個人の支援を行ってまいります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

介護人材の課題解決と、高齢者のQOL向上を支援。

## 社会課題と顧客ニーズ

### ■ 介護人材不足・需給ギャップが深刻化

これから不足する介護人材の数は、

**2023年度22万人⇒2040年度69万人に拡大**

※出典：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/000804129.pdf>

### ■ 認知症高齢者の数と比率の増加

65歳以上の認知症患者の推定患者数と有病率は

**2020年600万人(17%)⇒2040年に800万人(21%)**

以上へ増加

※出典：厚生労働省 <https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/23685>

## 新たに着手している取り組み

### 人材紹介・派遣事業の拡大

ベネッセMCM



2021年グループイン

ハートメディカルケア



### 知見の還元・介護職との接点



介護職の方を中心に  
登録会員数10万人

### マジ神AI



2022年度 IT賞受賞  
＜顧客・事業機能領域＞



最後に、介護領域です。

急激な高齢化が進む日本では、介護人材不足が深刻化していくことが確実視されています。また、中でも認知症の高齢者の方々が増加することで、介護現場ではより難しい対応が迫られるようになります。

このような状況に対して、ベネッセはコア事業である介護施設での改善を超えて、人材紹介、派遣事業を本格的に拡大強化するとともに、われわれの深い介護知見を広く社会に還元するための「介護アンテナ」というサービスを通じて、社内を超えて広く一般の介護職の皆様と接点も拡大します。

そして、認知症高齢者の皆様向けに、弊社の介護の匠でもあるマジ神の知見を結集して開発した、「マジ神 AI」というソリューションを展開していきます。

これらを通じて、介護人材の課題解決、そしてそれを通じた高齢者の皆様の QOL 向上に取り組んでまいります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ライフステージを跨がる商品・サービスに蓄積された顧客接点が、実現への大きなアセット。



**たまひよWEB**  
[ 月間ユーザー数 ]  
**438万**<sup>※1</sup>

[ 国内会員数 ]  
**249万人**<sup>※3</sup>

[ 国内ユーザー数 ]  
**110万人以上**<sup>※6</sup>

[ 会員数 ]  
**10万人**

**まなびの手帳**      **マナビジョン**  
[ 累計ダウンロード数 ]      [ ID登録数 ]  
**189万**<sup>※4</sup>      **100万**<sup>※5</sup>

**たまひよアプリ**  
[ 年間ダウンロード数数 ]  
**53.4万**<sup>※2</sup>

小・中学校との接点		高校との接点	
<b>ミライシード</b> <b>9,010校</b> <sup>※7</sup>	<b>EDUCOM</b> <b>10,763校</b> <sup>※8</sup>	<b>Compass</b> <b>4,391校</b> <sup>※9</sup>	<b>Classi</b> <b>1,511校</b> <sup>※10</sup>

※1: 2022年11月  
 ※2: 2022年  
 ※3: 2022年4月  
 ※4: 2023年1月  
 ※5: 2023年2月  
 ※6: 米国Udemy社との  
 包括的業務提携に基づく  
 ※7: 2023年3月見込み  
 ※8: 2023年1月  
 ※9: 2021年度  
 ※10: 2023年1月末

これらの人にかかわる社会課題の解決、それを通じた持続的な成長の実現に向け、われわれが最も大切なアセットと考えているのは、多くのお客様との接点、そしてそこでの信頼です。「こどもちゃれんじ」、「進研ゼミ」の会の皆様は当然として、現在では「たまひよ」、「Udemy」、「介護アンテナ」、また学校向けの各種アプリ、サービスなど、多様なデジタルサービスで多くのお客様とつながっています。

われわれはそのような貴重な接点、ご縁、信頼の一つ一つを大切にし、その上でグループパーパスの実現に向けて、新しい挑戦に取り組んでいきたいと考えています。それではこの後、社長の小林から最後、話させていただきます。

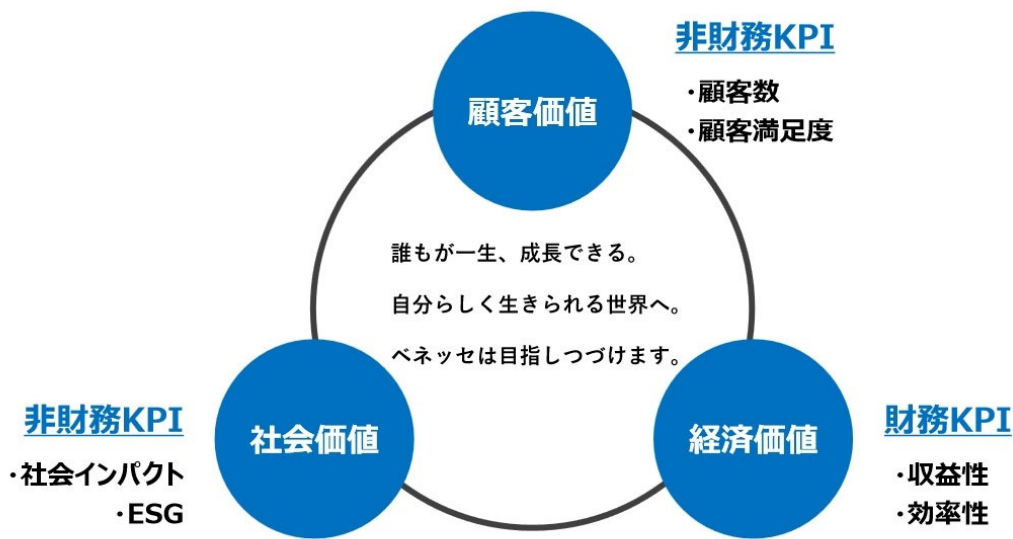
## サポート

日本                      050-5212-7790      米国                      1-800-674-8375  
 フリーダイヤル      0120-966-744      メールアドレス      support@scriptsasias.com





生み出す価値を顧客価値・社会価値・経済価値の3つの価値に分解し、目標・KPIを構築。



**小林:** 以上が、われわれが今考えているサステナブルな成長の考え方、そしてグループパーパスのご紹介、さらに具体的に始めようとしている、あるいは始まっている事業のトピックスをご紹介しました。

これらのベネッセのサステナブルな成長をいかに実現していくか。そのことにおいてはどう目標を設定し、どう KPI を設けていくかも、非常に重要なポイントになると考えています。その目標設定、KPI 設定においては、われわれは前にありますような三つの価値をしっかりと言葉にし、その真ん中にグループパーパスを置き、グループパーパスを起点にしながら、この三つの価値をそれぞれ設定し、なおかつ回していくことが非常に重要であろうと。それこそが社会課題解決と事業を一体化して考えていく、ベネッセの目標設定のあり方であろうという考え方を今、とろうと思っています。

まず、三つの価値の一つ目は、社会価値でございます。社会のインパクト、あるいは ESG の視点が、教育、介護の事業においては非常に重要だと思っています。

二つ目の顧客価値は、われわれのサービスを受けていただいているお客様、その者から見たわれわれの価値や評価を、しっかりと目標の中に取り入れていくということをしていきたいと考えております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

そして、その社会価値、顧客価値にこだわって事業運営をしていくことで、結果としてしっかりとした経済価値を生み出していく。このサイクルを回していくことが、ベネッセらしい事業の成長の仕方であり、目標の持ち方であろうと、そのような議論を今、しているところでございます。

---

## サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



		教育		介護	
		目指す姿	KPI ※水準検討中	目指す姿	KPI
顧客価値	▼子ども・家族 意欲や夢・目標をもって学びを楽しみ、 未来に生きる資質・能力・態度を獲得できる		■商品満足度・継続率	▼ご高齢者のご家族 いつまでも自分のありたい姿に 近づくことができる	■マジ神認定数 ・のべ600人(FY25)
	▼社会人や就労先 自らキャリアオーナーシップを持って、 社会で活躍し続ける人生を送る		■「Udemy」採択数・ コンテンツ利用者数	▼介護人材 目指したい介護職の姿が明確になり、自分 の可能性や専門性を高め続けることができる	■介護業界の 処遇水準をリード
社会価値	未来を生き抜く学びを提供する 生涯を通じて学びを支援し、 新たな人生を開拓する人を増やす		■多様な学び 総数ユーザー数  ■大学社会人教育 総ユーザー数	人とテクノロジーの融合によって 高齢者のQOLを高めロールモデルとなる 介護人材を増やす	■マジ神AI開発状況 ・有料老人ホーム 全拠点導入(FY24)  ■介護アンテナ会員数 ・30万(FY25)
	<b>E</b> ■スコープ1+2(1.5℃目標) ・2030年52.8% ・2050年100%	<b>S</b> ■エンゲージメント調査「A」 ■女性業務執行取締役1名	<b>G</b> ■取締役会の実効性向上		
経済価値	売上5,000億 営業利益400億(FY25)				

続きまして、現在検討している非財務 KPI について、少しご紹介をしたいと思います。

現状はまだ策定中の部分がございますが、左側が教育、右側が介護、それぞれにおいて顧客価値、社会価値を、この表に示したように言語化をしている段階でございます。これをそれぞれの事業や領域にもう少しかみ砕きながら、より事業をやっていく立場として、あるいは社会やお客様から見ていただいて納得感のあるものとして、非財務 KPI に昇華をしていきたいと考えております。

また、ESG についても同様に、この非財務 KPI の中でしっかりと目標を設定することが重要だと考えております。現状 E については環境問題における目標、S については先ほど一部説明もさせていただきましたが、社員のエンゲージメント、あるいは女性業務執行取締役の追加というか、いつそういう方を導入できるか、登用できるかも、具体的な年度の目標をもって取り組んでおります。

CEO である私の評価そのものにもこれらの項目を挙げて、取り組んでいこうと、取り組んでいける、という状態でございます。

また、G についても、社外取締役が 5 割を超える、半数の構成で取締役会を運営していますが、より実効性を高めていけるための実効性調査を毎年積み重ねながら、ここのガバナンスのしっかりとした強化をしていきたいとも考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ここまで、サステナブルな社会の実現に向けた変革と成長について、お話をさせていただきました。

それではここで、ベネッセホールディングスの社外取締役から見た、現状のベネッセについてコメントをいただいておりますので、ぜひ皆さんにも共有させていただきたいと考えております。

それでは、VTRをお願いします。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



# 社外取締役からみた ベネッセ

**映像：**自分たちにとってのよく生きるっていうのは何なのかっていうことが、まず浸透している。これがすごく徹底してると思うんですね、理念がしっかりと一人一人の行動に結びついているのは、すごくそういう現場を見せていただいても感じますね。

こんなふうな幸せを提供したいみたいな、だからこの事業なんだとかっていうのを、再構築もしなきゃいけないし、変わっていかなくちゃいけないかなっていう、そんな気はしています。もっともっと良くしたいみたいな気持ちがあることは、ものすごく感じています。これがすごい強みだと思います。

人の一生の中でいうと、大学・社会人っていうのは今までは少し薄かった部分ですけども、その部分が今本当に強化されつつあるなっていうのもありますし、そうすると全体がつながってくることは、すごく私自身は良いかたちになってきてるんじゃないかなと思います。

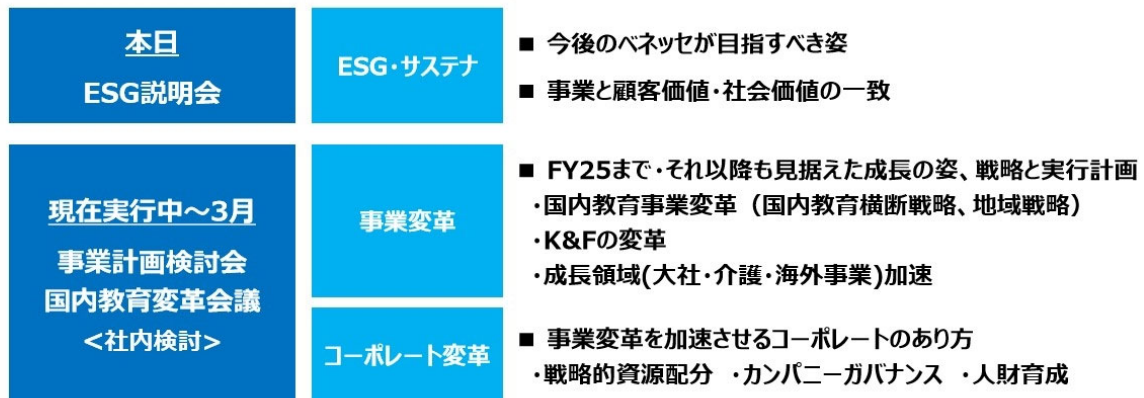
執行のほうの危機意識とそれから対処の仕方、それからそのスピード感ですかね。やっぱりこういうふうな、すぐ組織も含めて変えていこうっていうのはすごくダイナミックにできてると思います。新しい変革事業計画も私自身楽しみに待っています。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

5月の変革事業計画の発信に向けて、以下のテーマを軸に検討中。



## 5月 変革事業計画説明会

小林：最後に、今後に向けて今考えていることを少しご紹介させていただきたいと思います。

現在、ベネッセグループでは変革事業計画の策定を進めております。第2四半期の決算発表でも既に公表させていただいておりますように、この変革事業計画の発信を、皆様方への発表を5月にさせていただくことで今検討しているところでございます。

本日、このように ESG・サステナビリティの説明会をさせていただきましたが、今日お話をさせていただいた、今後のベネッセが成長で目指すべき姿、事業と顧客価値、社会価値の関係、そしてグループパーパス。こうしたものをよりどころに、今後ベネッセグループがどういう領域で、どういうかたちで事業を成長させていくのかをまとめている。それを変革事業計画としてしっかりとかたちにし、皆様方にご発表する、それを5月と考えております。

引き続き、皆様方としっかりとさまざまなかたちでコミュニケーションをとらせていただきたいと思いますと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

それでは以上で、われわれからの説明は終わらせていただきます。

[了]

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com